

原子力事故とヨウ素剤（茨城県内でヨウ素剤を服用するような状況ではありません）

福島第一原発の事故で、放射線や放射性物質が飛散していることから、住民の方々からヨウ素剤に関する相談が寄せられていることと思います。ヨウ素剤は、原子力事故の際に放出される放射性ヨウ素を吸入した際に、放射性ヨウ素が甲状腺へ吸収されることを阻害する働きがあり、甲状腺ガンの発症を低減させる目的で、甲状腺被曝線量が 100 ミリシーベルトを越えると予測される場合に服用します。福島原発事故による影響は、県内各地でもモニタリングしており、距離の関係等からも、県内住民がヨウ素剤を服用しなければならないような状況になることは考えにくいと思われます。

【基礎知識】

1．ヨウ素剤は万能ではありません

原子力事故の際には、放射性ヨウ素以外にもクリプトンやキセノンなど様々な放射性物質が放出されますが、ヨウ素剤は放射性ヨウ素以外の核種には効果がありません。また、外部被曝にも効果はありません。

2．安定ヨウ素剤とは

ヨウ化カリウム製剤のことです。13 歳以上 40 歳未満の方にはヨウ化カリウムの丸剤(ヨウ素量として 38mg)を 2 錠、7 歳以上 13 歳未満の方には 1 錠を服用させます。7 歳未満の小児にはヨウ化カリウムを単シロップに溶解したシロップ剤(ヨウ素量として 12.5mg/ml、要時調整)を新生児には 1 ml、1 ヶ月以上 3 歳未満は 2ml、3 歳以上 7 歳未満には 3ml を服用させます。40 歳以上の方は、放射性ヨウ素によって甲状腺ガンの発生率が増加しないとされているため、服用する必要はありません。

3．ヨウ素剤はどこで配られるのか

安定ヨウ素剤は、県内で原子力事故が発生した場合、県災害対策本部が各種情報を元に服用の指示を行い、周辺住民が退避し集合した場所などにおいて、配付されます。放射性ヨウ素は、新生児や乳児に影響が大きいので、新生児・乳児・妊婦の服用が優先されます。

4．ヨウ素剤はいつ飲むのか？

放射性ヨウ素を吸入する直前又は直後に服用することが最も効果的で、6 時間後ではほとんど効果がありません。また早く服用し過ぎても効果がありません。

5．ヨウ素剤の副作用は？

長期服用により、甲状腺機能亢進症や甲状腺機能低下症などを、1 回服用でも、火照り感、皮疹、頭痛、関節痛、胸やけ、吐き気、下痢などを起こす恐れがあります。また、ヨウ素過敏症、低補体性血管炎、ジューリング疱疹状皮膚炎、甲状腺機能異常症の方には禁忌となっています。

6．安定ヨウ素剤の代用品の使用は？

ヨウ素はコンブなどの海産物に含まれていますが、短時間に必要な量のヨウ素を吸収させることは難しいので、効果がないと言われていています。また、ヨウ素を含む含嗽剤などもヨウ素以外の成分が多く含まれ、有害な作用を及ぼす可能性のあるほか、ヨウ素含量が少なく効果がないとされています。